

化学生物総合管理学会 研究計画書・報告書

研究計画書	
研究会の名称	化学物質総合管理活動評価研究会 (活動評価研究会)
題目	
参加者(座長◎ 副座長○)	結城命夫 他
研究開始年月および 研究終了予定年月	2006年 6月から 2009年 3月まで
研究の目的	社会として化学物質の管理能力を向上させるためには、社会を構成し化学物質の管理の主体者となる各当事者(セクター)の管理能力を強化することが不可欠である。しかしながら、その管理能力を客観的に評価する適切な手法があるとは言い難い。そこで各当事者の「化学物質の適正な管理」に係る行動を評価する指標を作り、その評価指標に基づいて評価した結果を討論する。
研究計画の 内容	(1) 評価指標の作成 準備できているものとして、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンターが作成した評価指標のモデルがある。これについて更に現場実態の状況を加味して、現実的、妥当性のある評価指標を議論する。 (2) 国際的にも通用する評価指標の検討 SAICMの構成文書であるGPA (Global plan of action) を研究して共通性を確認しながら評価指標モデルを国際的に通用するもの評価指標モデルについて議論する。 (3) 調査結果について、評価項目別あるいは業種別に解析して、問題点、課題などを社会に発信する。調査を進める段階で調査票に改善すべき点が見つかれば、議論してより有効な評価指標に改善を提案する。 (4) 企業活動の評価が出来る評価指標を最初に手がけるが、引き続き他の主体者を評価する活動評価指標の検討も視野に入れる
受理番号	企画運営委員会 受理 2006年5月26日
報告書	
2006年度	
1. 研究会は6回開催した。	
2. この研究会の機能は2つであると認識整理したうえで、以下の9点について活動した。	
機能	活動項目
学ぶ	① 総合管理原則の確認 ②指標の改善モデル ③SAICM ④UNEP-FI の責任投資原則
議論して、意見・考えを 組み立てる。検証する。	企業用評価指標 ⑤2006年調査結果考察 ⑥SAICM と指標枠組みの整合性検証 ⑦指標の枠組み見直しを提案 政府用評価指標 ⑧政府用評価指標の枠組み討論 (企業用との差異検討) ⑨SAICM と指標枠組みの整合性検証
3. 成果発表など	
・化学生物総合管理学会第3回学術総会発表(2006.10.6) 発表者 窪田	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本リスク研究学会第 19 回研究発表会発表(2006.11.11) 発表者 窪田</li> <li>・ 学会誌 化学生物総合管理 2 巻 2 号投稿(2006.12) 著者 窪田、結城、増田</li> <li>・ 「化学物質を経営する」(2007.2 化学工業日報社刊) 部分執筆を担当 窪田、結城、増田</li> </ul> <p>4. 今後の予定 次年度も継続する。</p>		
	企画運営委員会受理	2007 年 6 月 18 日
<p>2007 年度</p> <p>1. 研究会は合計 5 回開催した。</p> <p>2. 活動の内容</p> <p>(1) 評価指標の枠組みについて、パフォーマンス軸(P 軸)は包括的な評価項目に加えて管理の視点別にどう配慮されているかを新たに見るべきであるとの議論となった。管理の視点としては、従業員(労働者)、消費者、一般市民、環境保全への配慮で見るとよいとまとめた。</p> <p>(2) 企業用評価指標と対比させながら、政府用の評価指標について討論して第 1 回調査を行う質問票のとりまとめを行った。</p> <p>(3) 2007 年度調査結果について、データの速報紹介とまとめ方について意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業活動評価では、同一業種内でのばらつきが大きいこと、活動の状況や実績を評価するパフォーマンス軸の点が相対的に低いことなどが明らかになった。</li> <li>・ 政府の現状調査では 8 機関から回答を得た。概して所管している法律の規制の範囲内で活動しており、総合的な管理を行っていないことや企業の評価点に比べると低いことなどが明らかになった。</li> <li>・ 資料のまとめ方については項目別到達度と管理の視点別到達度は別々のグラフで表現すること、企業評価結果と政府評価結果を相対的に示す図表を準備すること、などが指摘された。</li> </ul> <p>3. 成果発表など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学生物総合管理学会第 4 回学術総会発表(2007.10.5) 発表者 結城</li> <li>・ 学会誌 化学生物総合管理 3 巻 1 号投稿(2007.12) 著者 窪田、神園、結城、増田</li> <li>・ 学会誌 化学生物総合管理 2 巻 2 号投稿(2007.12) 著者 神園、窪田、結城、増田</li> </ul> <p>4. 今後の予定 次年度も継続する。</p>		
	企画運営委員会受理	2008 年月日
<p>2008 年度</p>		
	企画運営委員会受理	年月日